

国土交通大臣 殿
国交省横浜国道事務所長 殿
NEXCO 東日本横浜工事事務所長 殿

平成 27 年 4 月 23 日

横浜環状道路（圏央道）対策連絡協議会
会長 比留間哲生
第 40 回公害被害者総行動実行委員会
4・23 神奈川共同行動実行委員会
実行委員長 福田弘行

横浜環状道路南線計画の撤回申し入れ

横浜環状道路南線（横環南線）は昭和 62 年の四次全国総合開発計画に組み入れられた高速道路計画です。この横環南線は横浜市栄区の住宅地と貴重な都市近郊営農地を東西に貫く高速道路計画で、既に計画発表から 28 年も経っています。

住宅地内を新たに貫く道路から、沿線の谷戸で囲まれた公田地区では無風～低風速時には谷戸底部の掘割構造からの自動車排ガスが谷戸全体に充満する等大気汚染が発生し極めて深刻な健康への被害が予想されます。また、道路からの騒音は第 1 種住宅専用地域の環境をはるかに逸脱します。全長の 47%はトンネルとはいえ、その大半は住宅地の下であり、住宅地の殆どは山を削り谷を埋めた大規模な盛土による造成宅地であり、トンネル掘削による地盤沈下の恐れは拭えません。横環南線は現在の良好な住宅地の生活環境を著しく破壊する計画となっています。

この高速道路予定地沿線に住む私たち住民は生活環境を破壊し公害被害をもたらす横環南線の白紙撤回を含む抜本的見直しを求めてきましたが、事業者は環境対策において環境基準値以内であれば問題ないとの立場を崩さず、環境アセス時の計画から何ら改善を図ろうとしていません。

加えて、市民にとって最も重要な生活インフラである日野隧道等上水道幹線、下水道幹線に横環南線トンネルが近接交差して工事されることが判明し、市民にとって極めて危険な高速道路であります。住民関係者、専門家を入れた協議会設置の要請にも未だ応えておりません。

このような住民無視の道路計画は到底受け入れることは出来ません。

他方で、横環南線の計画発表から既に 28 年を経過し、この間に日本の社会、経済情勢は大きく変貌しています。

戦後の人口増加・高度成長経済の時代は過ぎ去り、少子高齢化、著しい経済の低迷、重工長大産業の衰退と製造業の海外転出、若者の車離れ等の新たな時代に入っています。

政府は無駄な公共事業を続けてきた結果、国の債務は 1,000 兆円にもなり、消費税増税をもってしても国家財政の破綻は覆うべくもない状況と言えます。にもかかわらず更に借金政策を重ねています。

もっとも重要なことは日本は急速な人口減少化時代に入ってきたことです。30 数年後には 1 億人程度までと現在より 20%以上も人口が減少してしまうことは必至と言えます。

人口減少化時代を迎えたうえ、国家財政改善の展望すら見通せない中では、高速道路などのインフラ新設はもはや不要不急の産物で無駄の一言に尽きます。

また、数百名の地権者が納得していない中で用地の強制収用の手続き開始はもってのほかであり行政の横暴と言えます。

以上により、横浜環状南線の撤回を申し入れます。

以上